



わが社の アジア戦略

ベトナムでも「みらいく保育幼稚園」

第一コーポレーションが初の海外展開

第一コーポレーション（埼玉県川越市）が、ベトナムでの幼児教育事業に乗り出している。「みらいをともに育み、いきいきと輝く」の理念のもと、日本では東京都と神奈川県で25園を展開。日本で取り組んできた主体性や非認知力などを重視した幼児教育を、ベトナムでも広げていく考えだ。

このほどホーチミン市で2つの園を運営する企業に出資して、持ち分の過半を取得した。「パートナー企業は、まったく同じような理念のもとで似たような事業を行っていて、お互いに意気投合した。コロナ禍だったからこそ、こうした出会いがあったのかもしれない」（執行役員・海外事業本部の大島秀介氏）。

5年ほど前から海外事業の検討を開始した

が、ここ2年は海外渡航が難しく、現地調査などはリモートで行ってきた。現地・現物を確認できないような状況が続いたが、そうしたなかで良縁に恵まれた。ホーチミン市フーニャン区を拠点とする「リトルハンズ・モンテッソーリ園」は、第一コーポレーションの「みらいく保育園」と同様、日本と欧米のメソッドを軸とした幼児教育を実践していた。

豊かに生きる力と主体性を育む

「みらいく保育園」のユニークな点は、みらいくラボという専門家チームの存在だ。子供の発達段階に応じて「木育」や「食育」など科学的なアプローチを取り入れている。自然や自然の物と触れ合うことにより、豊かに生きる力と主体性や非認知力が育まれるためだ。命を大切に作る心、コミュニケーション力、感性なども磨かれる。「自然の物は一つとして同じものがない。木の枝でも葉っぱでも一つ一つがすべて違うため、多様性を感じたり、組み合わせや加工を通じて感性や表現力が育っていく」（同）。

こうした教育は欧米式のメソッドにもあり、将来の収入レベルや社会的地位、犯罪率といった科学的な研究結果をもとにした幼児教育で、子どもたちの豊かな未来、社会への貢献を目指している。子どもたちの自主性を尊重しながら、自分で考えて計画、実行して、その結果がどうだったかを振り返る作業を支援しているという。



ホーチミン市で運営を始めた保育幼稚園

現地の良い取り組みを日本に

ベトナムでは、新たに「みらいくりトルハズ」として園を運営中だ。運営体制は従来通りとしながら、日本で培った教育ノウハウやメソッドを導入して、さらに付加価値の高いサービスを提供していく計画。また、「現地でもすでに良い取り組みを行っていて、逆に日本に持ち帰りたいものもある。今後は園児や教職員の交流などを含め、日本とベトナム



双方にとって良くなることが増えてくるのではと期待している」(同)。

ベトナムでの横展開も積極的に行っていく。ホーチミン市はもちろん、ハノイやダナン、ハイフォンといった主要都市なども視野に入れ、事業拡大していく考え。コロナ禍にあり、M&A（合併・買収）の機会が増える可能性があり、理念などが一致できれば現地企業を傘下に入れていくことも検討する。(22/2/7)(M)

ベトナムの幼児教育事情

大島氏によると、ベトナムでは給与水準の上昇により可処分所得が増加するなか、その多くを子どもへの教育に充てる家庭が多い。サービス品質の高い幼稚園は、月謝が日本円で4万～5万円、バイリンガルクラスではインターナショナルスクールと同程度の8万円ほどになるが、市場ニーズは高い。国が教育に力を入れていること、一般に考えられる以上に富裕層が厚いことや、共働きでダブルインカムの家帯が少なくないこと、さらに将来の親の面倒は子どもがみるという伝統が続いており、「将来への投資」という考えも、背景にあるという。単に子どもを預けるだけでなく、教育の一環としての幼児教育への関心が高まっている。

第一コーポレーション

「豊かな暮らしを育む」を経営理念に、アミューズメント事業やホテル事業、カルチャー事業、児童保育事業を手がけ、設立54年になる。本部・本社のある埼玉県を中心に、東京都や神奈川県、千葉県で事業を展開。近年は通所型の介護事業や便利屋さん事業へも進出し、地域の暮らしに根差した様々な活動を行う。新たな事業ポートフォリオとして海外市場をターゲットとして、ベトナムでの保育幼稚園運営を開始。日本での取り組みのさらなる海外展開を模索している。

